

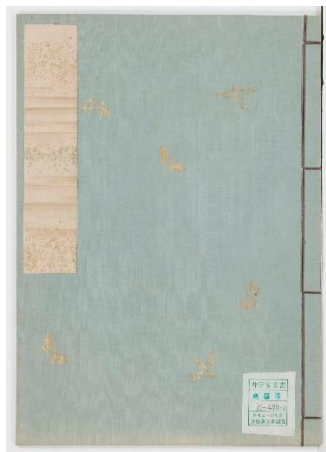
■ テーマ展「彦根藩井伊家の鷹狩り」展示リスト ■

No.	指定	名称	年代	数量	所蔵	内容
1 重要視された鷹						
1		にほんしよき 日本書紀	養老4年 (720) 文政13年 (1830) 再刻	1冊 (15冊の うち)	当館 (井伊家伝来典籍)	日本最古の勅撰の歴史書。仁徳天皇の事績を記した11巻に、鷹狩りを行った際の記述があります。
2		しんしゅうようきょう 新修鷹経	弘仁9年 (818) 天保15年 (1844) 写	1冊 (3冊の うち)	当館 (井伊家伝来典籍)	日本最古の鷹書。嵯峨天皇が編纂させたといわれる書物。鷹についての知識や鷹狩りを行うための訓練法などが記されています。
3		しよこくたかしゅつしよちめい 諸国鷹出所地名	江戸時代	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	日本全国の鷹の産地を書き上げた書物。
4		しちようず 鷺鳥図	桃山時代	1隻	当館 (井伊家伝来資料)	松の木にとまっている鷹と、鶴に襲いかかる瞬間の鷹を描いた絵画。
2 鷹を拝領する						
5		いいなおずみしよじょう 井伊直澄書状	年未詳10月26日 (寛永末年 (1640頃))	1通	個人(当館寄託) (三居孫太夫家文書)	3代当主となる井伊直澄が隼之介という家臣に宛てた手紙。その中で、2代当主井伊直孝が、将軍から拝領した鷹が到着して機嫌が良いことなどを報告しています。
6	重文	いいなおあきはじめておいとまおせだされそうろうしきしよ 井伊直亮初而御暇被仰出候式書	文化9年 (1812)	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	12代当主井伊直亮が彦根に帰国する際に江戸城で将軍から鷹と馬を拝領した時の詳細が記された書。
7	重文	いいなおあきはじめておいとまおせだされそうろうしきしよ 井伊直亮初而御暇被仰出候式図	文化9年 (1812)	1枚	当館 (彦根藩井伊家文書)	12代当主井伊直亮が彦根に帰国する際に将軍から鷹と馬を拝領した時の、直亮の江戸城本丸御殿内での動きを平面図で示したもの。
8	重文	ろうじゅうたつしよ 老中達書	明和7年 (1770) 10月18日	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	10代当主井伊直幸は彦根に帰国する際に将軍から鷹を拝領し、実際の鷹の授受は後日に行われました。鷹を明日渡すから、家臣に取りに来させるよう、幕府老中が直幸に指示しています。
9	重文	そばやくにつき 側役日記	明和5年 (1768)	1冊	当館 (彦根藩井伊家文書)	井伊家当主の側に仕えた側役によって記された日記。10代当主直幸が将軍から拝領した鷹が彦根に到着したことの記事があります。
3 鷹を管理する						
10	重文	おんしよとめ にかん 御書留 二卷	元文2年 (1737)	1冊	当館 (彦根藩井伊家文書)	井伊家当主の鷹頭取への指示を書き留めたもの。8代当主井伊直定が所有する鷹の名前とそれを預かる鷹役の名前が挙げられています。
11		たかやくようじょう 鷹役用状	年未詳7月21日 (嘉永2年 (1849) ~安政3年 (1856) の間と推定)	1通	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹役の2人が、自分たちを含む彦根藩の鷹役の流派について報告した手紙。
12		たかかりどうぐなどずかい 鷹狩道具等図解	江戸時代	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹に関する道具などの説明書。鷹を飼育する鷹部屋についての説明が図入りでなされています。
13		おんたかしょう 御鷹鞆	江戸時代	1箇	当館 (井伊家伝来資料)	鷹狩りに使用する、いぶした鹿の革で作られた手袋。
14		たかづ 鷹図	江戸時代	1隻	個人	「架」という鷹のための止まり木に、「大緒」という紐でつながれた鷹を描いた絵画。
15		たかしよいつけん じょうかん 鷹書一拳 上巻	慶安3年 (1650) 6月	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹や鷹狩りについての知識や技術が書かれた書物。鷹を据える「架」について記されています。
16		たかのしよ 鷹之書	慶安3年 (1650) 6月	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹や鷹狩りについての知識や技術が書かれた書物。鷹を「架」につなぐ「大緒」という紐の結び方について記されています。
17		たかお 鷹緒	江戸時代	2本	当館 (井伊家伝来資料)	鷹を「架」につなぐための「大緒」という紐。
18	重文	たかやくようじょう 鷹役用状	年未詳7月5日 (江戸時代後期)	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	鷹を飼育する鷹役が、具合の悪い鷹について、上司である鷹頭取に報告した手紙。
19	重文	たかやくとどけしよ 鷹役届書	年未詳7月7日 (江戸時代後期)	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	鷹を飼育する鷹役が、具合の悪い鷹について、上司である鷹頭取に報告した手紙。
20	重文	たかやくようじょう 鷹役用状	年未詳7月8日 (江戸時代後期)	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	鷹を飼育する鷹役が、具合の悪い鷹について、上司である鷹頭取に報告した手紙。
21	重文	たかやくようじょう 鷹役用状	年未詳7月9日 (江戸時代後期)	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	鷹を飼育する鷹役が、具合の悪い鷹について、上司である鷹頭取に報告した手紙。
22	重文	たかやくようじょう 鷹役用状	年未詳7月9日 (江戸時代後期)	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	鷹を飼育する鷹役が、具合の悪い鷹について、上司である鷹頭取に報告した手紙。
23		たかくすりかた ちゅうかん 鷹薬方 中巻	慶安3年 (1650) 6月	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹の体や症状ごとの薬について記された書物。

No.	指定	名称	年代	数量	所蔵	内容
24		たかりようじのまき 鷹療治之巻	江戸時代	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹の症状ごとの治療法について記された書物。
25		おたかえさとのこりものかきあげ 御鷹餌鳥残物書上	江戸時代	1通	個人(当館寄託) (三居孫太夫家文書)	鷹の餌となる鳥の種類と残りの数を書き上げたもの。
4 鷹狩りの準備をする						
26		いいなおのぶかきさげ 井伊直惟書下	江戸時代	1通	当館 (八木原太郎右衛門家文書)	7代当主井伊直惟が、鷹狩りについて、供揃え時間や船、弁当、船などについて指示した自筆の書付。
27	重文	ばいしゆけいおたかのにつきやくつけなまえがき 梅首鶏御鷹野二付役付名前書	嘉永3年(1850)3月25日	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	梅首鶏という鳥を獲物とする鷹狩りの際に、鳥を追い立てる役割をする列卒の名前の書上。
28		いそむらしょうやししょうべいらうけしよ 磯村庄屋庄平等請書	弘化4年(1847)10月30日	1通	当館 (磯崎家文書)	磯・筑摩・松原3か村の役人が、鷹狩りの差し障りになるので村人に網漁などを行わせないと、彦根藩の船奉行に誓約した文書。
5 鷹狩りを行う						
29	重文	おたかのおとちとめ 御鷹野御供留	宝暦7年(1757)1月	1冊	当館 (彦根藩井伊家文書)	10代当主井伊直幸の側役によって記された、直幸の行った鷹狩りの際の記録。鷹狩りの行程、結果などがわかります。
30	重文	おんめしかわごさぶねえず 御召川御座船絵図	江戸時代	1枚	当館 (彦根藩井伊家文書)	井伊家当主が乗る御座船の図。
31	重文	おいでとめ 御出留	文化9年(1812)	1冊	当館 (彦根藩井伊家文書)	12代当主井伊直亮の側役によって記された直亮の外出記録。直亮の出発時刻、鷹狩りの行程、どこで何を捕らえたかなどが記されています。
32	重文	ふねかわすじさいしきえず 船川筋彩色絵図	江戸時代	1枚	当館 (彦根藩井伊家文書)	八坂村と須越村の間の内湖で行われた鷹狩りの行程を描いた図。当主の乗った船と、同行した供船の進む様子がわかります。
6 鷹狩りの獲物を献上する						
33	重文	ろうじゅうほうしよ 老中奉書	文化9年(1812)12月28日	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	12代当主井伊直亮は鷹を将軍から拝領し鷹狩りの獲物の鳥を将軍に献上しました。献上された鳥を将軍に披露したことを、幕府老中が直亮に伝えた文書。
34	重文	とみたごんぞうかがいしよ 富田権蔵伺書	寛政11年(1799)1月7日	1通	当館 (彦根藩井伊家文書)	井伊家は、将軍と将軍世継ぎに雁と鴨を献上するのが通例でした。しかし、今年是不猟のため雁がとれず、将軍世継ぎへは雁金でもいいか、彦根藩城使役から幕府へ伺った文書。
35		たかしょいつけん げかん 鷹書一巻 下巻	慶安3年(1650)6月	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹や鷹狩りについての知識や技術が書かれた書。鷹狩りの獲物には、木の枝に掛ける作法がありました。それについて図入りで説明されています。
36	重文	ばいしゆけいたかのせつやくわりちよう 梅首鶏鷹野之節役割帳	文化2年(1805)4月5日	1冊	当館 (彦根藩井伊家文書)	梅首鶏という鳥を獲物にした鷹狩りの際の役割について記された書。獲物の鳥を竿に懸ける役割についての指示があります。
37		ようきようべんぎろん ちゆうかん 鷹経弁疑論 中巻	江戸時代	1冊	当館 (井伊家伝来典籍)	鷹や鷹狩りに関する問答形式での解説書。鷹狩りの獲物を台に乗せる際の作法について書かれています。

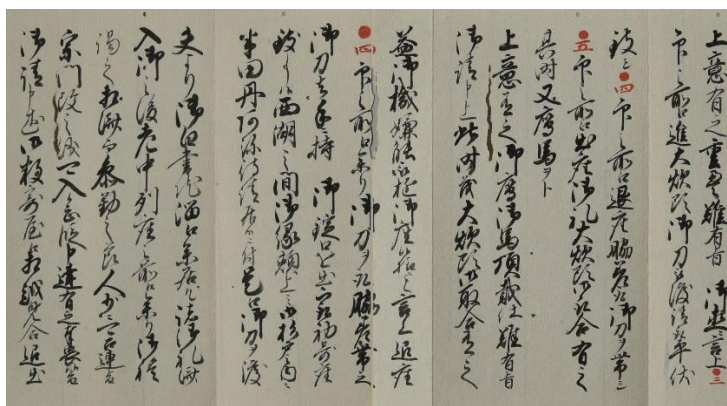
写真解説

- 1 ^{しんしゅうようきょう}新修鷹経 1冊 (展示リスト No. 2)
縦 27.5cm 横 20.3cm 天保 15 年 (1844) 写
当館蔵 (井伊家伝来典籍)



鷹狩りを好んだ嵯峨天皇 (786~842) が編纂させたといわれる、鷹と鷹狩りに関する日本最古の書。12 代当主井伊直亮 (1794~1850) の蔵書。鷹の体の部位名や飼育法、羽の生え変わり方、そして病気などの際の治療法などが記されています。また、鷹狩りを行うための鷹の訓練法など、鷹を扱うための知識や技術も紹介されています。写真部分では、右側に良い鷹、左側に悪い鷹を描き、それぞれの体の特徴を示しています。

- 2 ^{い いなおあきはじめて おいとまおせだされそうろうしきしよ}井伊直亮初而御暇被仰出 候 式書 1通 (展示リスト No. 6)
縦 17.2cm 横 148.2cm 文化 9 年 (1812)
当館蔵 (彦根藩井伊家文書)

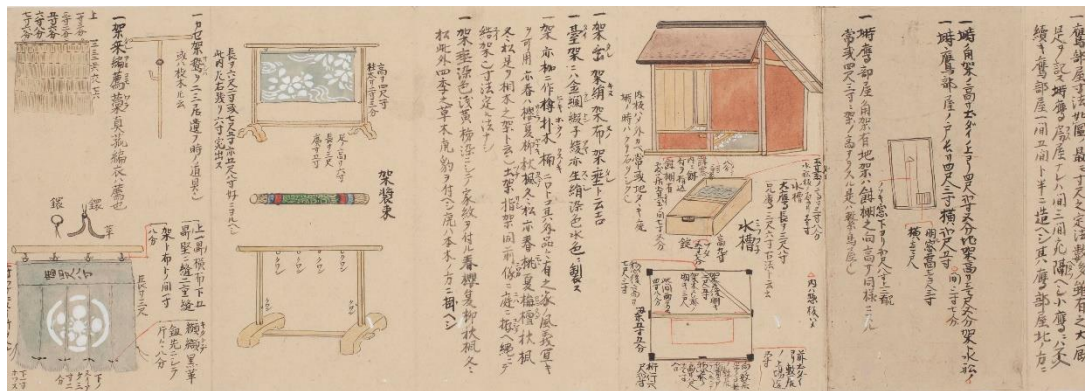


12 代当主井伊直亮が文化 9 年 6 月 1 日に江戸城本丸御殿で将軍と対面した際の一連の流れを記したものです。この時、直亮は当主となってから初めて彦根への帰国が許されます。帰国に際し、直亮は将軍に対面し、鷹と馬を拝領します。この資料には、直亮が将軍と対面する前日からの動き、限られた者しか入れない「御座之間」へ至るまでの流れ、対面の場での言葉のやりとりなどが詳細に記されています。写真の部分には、「御座之間」で直亮が将軍に「御鷹と御馬を頂戴しありがとうございます」と発言することが記されています。

3 鷹狩道具等図解 1冊 (展示リスト No. 12)

縦 17.3cm 横 9.0cm (折本) 江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来典籍)

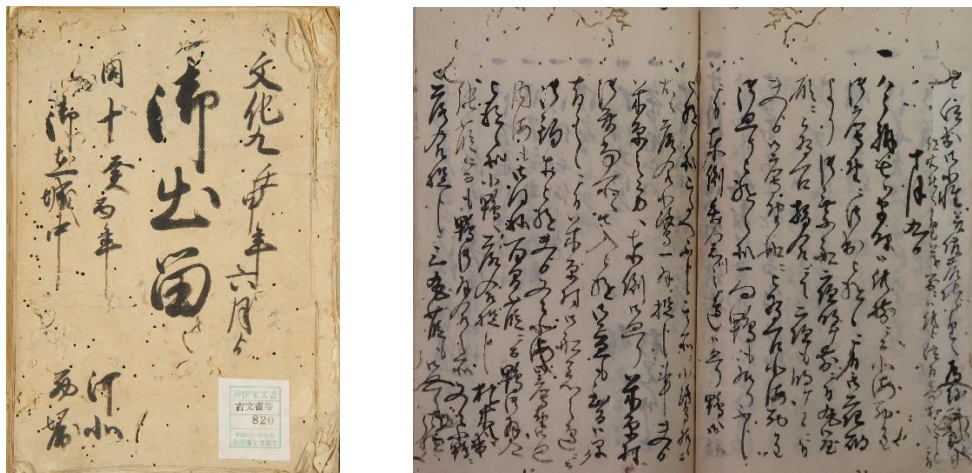


鷹狩りに関する道具などについての図入りの説明書。写真の部分では、鷹を飼育するための小屋である鷹部屋と、鷹の止まり木である「架」の装飾について、細かく記されています。鷹部屋については、その寸法、構造はもちろん、窓の高さや水槽、餌をやるための棚についても記されています。「架」については、材料の木も春は桜、夏は柳、秋は楓、冬は松といった具合に季節ごとに決められていました。また、「架」にかける布についても、その種類や色などが詳しく記されています。

4 御出留 1冊 (展示リスト No. 31)

縦 23.7cm 横 16.9cm 文化9年 (1812)

当館蔵 (彦根藩井伊家文書)



12代当主井伊直亮の側役が記した、直亮の外出記録。文化9年6月から翌年4月までの記述があります。鷹狩りの記録は10月から確認でき、以降、3月までの半年間に約30回鷹狩りを行ったことがわかります。写真右は10月9日の記録です。朝4時に彦根城表御殿を出発、彦根城と堀でつながっていた松原内湖や入江内湖、その北を流れていた矢倉川などで船の上から鷹狩りを行い、鴨などの獲物をとらえたことがわかります。このように、直亮の鷹狩りの行程やその結果などを知ることができます。